

# すくわくプログラム

## 「大きさ」



神愛保育園

2025 年度活動報告

# 目次

## ◎2025 年度すくわくプログラム 『大きさ』

活動テーマ設定理由 ..... 1

### ◎4・5歳児ひまわり組年中・年長の取り組み

『シャチの大きさ』 ..... 3

### ◎3歳児ちゅうりっぷ組の取り組み

『恐竜の大きさ』 ..... 7

『音の大きさ ①』 .....15

『音の大きさ ②』 .....21

### ◎4・5歳児ひまわり組年中・年長の取り組み

『体の大きさ』 .....27

全体まとめ クラス担任より ..... 32

# 2025年度すくわくプログラム

## 神愛保育園 テーマ

# 『 大きさ 』

### 活動テーマの設定理由

在園児の中で弟や妹などが生まれた家庭が多く、生命の誕生を身近に感じる子がいた。お迎え時に保護者の方が抱く赤ちゃんを目の前で見て、自分たちが成長して大きくなったことを実感したり、生まれたばかりの赤ちゃんの泣き声を聞いて、小さな体から大きな声が出る「声の大きさ」にも気がついたりする子どもたちがいた。そこで、今年は自分たちが成長していることを改めて実感する為、テーマを「大きさ」にし、動物や人、色々な音の大きさを保育園の中や園外で感じていきたいと考えた。

対象児 3・4・5歳児 39名



# 『シャチの大きさ』

## ★活動テーマ、設定理由

春先のこと。年長児からこんな会話が聞こえてきた。

A「シャチって魚の中で王様らしいよ」

B「メカジキもいるよ。クロマグロも」

A「この間、築地のお寿司屋さんに行ったらそこの店長が大きい人だったんだ。」

B「僕も静岡のお寿司屋さんでマグロ食べたよ」

折り紙や廃材でお寿司を作り、お寿司屋さんごっこを楽しみながら話が弾んでいた。この様子を見て、もっと魚のことを調べられるようにと新たに図鑑を購入した。すると他の子たちも魚について興味を持ち、みんなで色々な魚を調べ始めた。その中で魚の大きさについて話す姿があり、テーマとして取り上げ、深く調べていきたいと考えた。

## ★対象児 4・5歳児クラス 25人

## ★実施スケジュール

### ① 魚の大きさについてみんなで知っていることを共有する

・「魚の大きさ」についてみんなで調べたことを共有する。

### ② 環境を整える

・新しい図鑑、話し合うテーブルを準備する。

・子どもたちの話し合いから、鴨川シーワールドに行く計画を立てる。

### ③ 実践・記録

・千葉県鴨川シーワールドに行き、本物の水の中の生き物を見る。

### ④ 共有・振り返り

・水族館に行き、本物のシャチを見てどうだったか？を振り返り、どんな発見があったのかを共有していく。

## 活動内容① 『魚について知っていることを共有する』

魚を図鑑で調べていると、生きている魚に興味を湧いてきた子どもたち。水族館に家族で行ったことのある子もいれば、行ったことがない子もいたので、実際の水族館のイメージが湧かず、魚の大きさも図鑑の中の数字しか情報がないため、「大きさがわからないな～」と言う子もいた。

すると、「じゃあ、みんなで水族館に行くのがいいんじゃない？」との声が上がリ、どこの水族館に行きたいか？を保育者も入り調べることにした。「魚の中で一番大きいのが“海の王様、シャチ”」というフレーズを図鑑から見つけ、聞いたことがあった情報を図鑑でも確認することが出来、実際に見てみたい気持ちが強くなった。シャチがいる水族館を探すと千葉県にある「鴨川シーワールド」にいることがわかった。



## 活動内容② 『鴨川シーワールドに行く』

水族館の目の前が海だったため、海の匂いに気づく子もあり、「なんか魚の匂いがする。」「海の近くだからじゃない？」と匂いから海や魚を近くを感じ、期待を膨らませていた。

水族館の中に入ると大きな水槽の中で「カニ」が泳いでいた。「タカアシガニって書いてある」と文字が読める子たちはカニの種類も確認していた。カニが自分たちの予想以上の大きさであったことから、イルカ（ベルーガー）やカメなど「大きい」というイメージを持っている生き物たちを自分たちの目で見てみたいと思うようになってきた。水族館の様々な生き物を見て大きさはもちろんだが、匂い、魚の色などにも気づく子も出てきた。

### 活動内容③ 『シャチの大きさを感じる』

水族館を楽しみながらも、A が話をしてきた「海の生き物の中でシャチが王様なんだよ」という話を覚えており、シャチがどこにいるのかを探す様子があった。館内を進んで行くと、「バシャーン」という大きい音が聞こえてきた。保育者がシャチのショーを見られることを伝えると、「あの水のしぶきを出す魚はシャチなの？」と早くシャチを見たいという気持ちが高まっていった。

そして、ショーが見られる「オーシャンスタジアム」の中に入り、実際に目の前にシャチが現れると、水しぶきや迫力に「怖い」「食べられそう」と言った不安な声を口にする子もいた。子ども達の中で「大丈夫だよ」と励まし合っているとシャチのショーが始まった。シャチの迫力とすごい量の水しぶきが怖くなり、友だちや保育者の後ろに隠れる子もいたが、「海の王様、シャチ」を実際に見て子どもたちは「すごく大きかった」「水槽の中で泳いでいるけど、他の魚と違って海の匂いがした」など感じたことを話していた。



## 振り返り・まとめ

保育園に戻り、振り返りを行い、子どもたちから話を聞く。

「シャチ大きくてすごかった！」

「イルカよりシャチの方が大きかったね！」

「シャチのジャンプも大きかった！」

「大きいカニもいたよね！」

「大きい魚もいたけどメダカみたいにちっちゃい魚もいたね！」



魚の大きさを実際に目の前で見ることで、図鑑では分からない、本当の大きさを感じていた。

この五感を使った体験から、ブロックで「シーワールド」を作り、魚やシャチのショーを友だちと共有したり、プール活動の時期でもあったので、プール内でシャチの役とシャチに餌をあげていたトレーナーの役になって遊びを展開したりと、水族館を遊びに取り入れて発展させる姿も見られた。

プール内でのごっこ遊びでは「音が違うよ。もっと『バシャーン』って大きい水しぶきもあったし、迫力が違うよ」と今回のテーマである「大きさ」を表現する姿も見られた。魚の大きさはもちろん、水しぶきをあげる「大きさ」など単なる物の大きさだけでなく、「色々な大きさ」にも気づくことができた。

今回は夏に行ったので「寒くなっても泳いでいるのかな？」と新たな疑問が浮かんだり、また「人間の中では誰が一番大きいのかな？」と人の体の大きさにも関心を示したりする姿があったので、次につなげていけるようにしていきたい。



## 『恐竜の大きさ』

### ★活動のテーマ、設定理由

恐竜に興味を持っている子どもが多かったため、恐竜図鑑や中生代をテーマにした絵本（『中生代水族館』や『わけあって絶滅したけど、すごいんです』など）や恐竜の塗り絵などを用意していた。子ども達から「みんなで一つの恐竜を作りたい」という声があがったため、模造紙（縦 80 cm横 100 cm）にみんなでステゴサウルスを描く遊びをした。その後、A が図鑑を見ている時、恐竜の大きさ比べのページで大きな恐竜だけではなく、自分（人間）より小さな恐竜もいることに気づいた。そのため「恐竜の大きさ」をテーマにすることにした。

恐竜が大好きなクラス！みんなで大きな恐竜を作っている様子♪



## ★対象児 3歳児クラス 14人

### ★実施スケジュール

#### ① 子どもと考える

- ・「恐竜の大きさとどれくらい？」と提案し、どのような大きさの恐竜がいるのかを考える。

#### ② 環境を整える

○恐竜に関する絵本や図鑑を用意する。

『じぶんでよめるきょうりゅうずかん』

『はじめてのきょうりゅうずかん』

『きょうりゅうのおおきさとどれくらい？』 など

○恐竜の製作で使う道具を準備する。

- ・画用紙 ・絵の具 ・タンポ筆 ・歯ブラシ ・ぼかし網
- ・シール ・霧吹き ・のり ・クレヨン ・筆

#### ③ 実践・記録

(1) Aの恐竜の大きさについての気づきをクラス全体に共有する。

- ・恐竜の図鑑や絵本『きょうりゅうのおおきさとどれくらい？』を通してAの気づきを共有する。
- ・恐竜は大きいと思っていたが、小さな恐竜もいると知った時の子どもたちの様子を観察したり、聞いてみたりする。

(2) 小さい恐竜を色々な技法を使って製作する。

- ・にじみ絵やスパッタリング・ビー玉転がしアート・シール貼りなどで小さな恐竜を楽しみながら製作する。

#### ④ 共有・振り返り

- ・活動中の子どもたちの声からどんな発見、学びがあったのかをまとめていく。

## 活動内容① 『Aの気づきを共有する』

集まりの時間に

「大きな恐竜を作ったけど、小さな恐竜もいることをAが教えてくれたよ」と子ども達に話す。すると

「この図鑑のここに書いてあった」とAが恐竜図鑑を持ってきてみんなに見せていた。

「大きな恐竜しかないよ」や「小さな恐竜は、赤ちゃんでしょ」

「小さいと食べられちゃうよ」など思い思いに話し始めた。

絵本『きょうりゅうのおおきさってどれくらい?』を読んでみた。

絵本を見て「本当に小さな恐竜もいるんだね」や「やっぱり赤ちゃんの恐竜は、小さいね」「僕より小さいのは怖くない」など小さな恐竜がいることを実感していた。

また「家の中には入れないくらい大きいね」や「バスより大きい」など絵本に出てくる大きな恐竜にもより関心を持っていた。集まりが終わると、友だちと一緒に絵本や図鑑を見て確認していた。

小さな恐竜って  
本当にいるの？



こっちの図鑑にも  
恐竜いるよ♪



小さな恐竜はどれだろうね？

## 活動内容②『小さな恐竜を色々な技法を使って製作する』

図鑑を見ながら

「大きなステゴサウルス作ったね」や「小さな恐竜も作りたい」

「小さな恐竜は、家族にする？」など話しながら楽しんでいた。

小さな恐竜を作りたいとのことだったため、「どの恐竜にする」と聞くと「ティラノサウルスがいいな」や「プテラノドンが好き」などの声があがった。

活動①や先ほどの会話から小さな恐竜がいることはイメージできていた。しかし、まだ子ども達の中で親しみを持つまではいっていなかった。

そのため、子ども達が好きな恐竜を小さく描き、いろいろな技法を使って色を塗ることにした。

### 【にじみ絵】

○画用紙を筆で濡らしてから、タンポ筆を使ってスタンプを押す。

絵の具が滲んで混ざり合っていくのを見て「ピンクになった」や「広がっていく」など楽しんでいた。また、友だちの恐竜を見て「かわいいね」や「この色はどうやったの」など感想ややり方などを話し合う姿が見られた。



### 【スパッタリング】

○歯ブラシに絵の具をつけて、ぼかし網をこする。

歯ブラシに絵の具をつけて、ぼかし網をこすったり、歯ブラシを指ではじいたりする。網をどかした後に「こんな模様になった」と嬉しそうに見せ合っていた。網で模様が見えないため、どんな模様になっているのか想像しながらスパッタリングを楽しんでいた。

## 【ビー玉転がしアート】

○ビー玉に絵の具をつけて箱を傾けたり、縦に揺らしたりしてビー玉を転がして模様をつける。

2歳児クラスの時にやったことを覚えていたようで、「楽しかったからまたやりたかったんだ」や「ビー玉の絵の具は、混ぜないよ」など2歳児の時に経験したことを活かす姿が見られた。また、箱を傾げるだけでなく縦に揺らすことで絵の具が線ではなく点でつくことを発見していた。



コロコロ  
どこへ  
行くのかな？



## 【シール貼り】

恐竜を塗り終わった後の自由遊びの際に、Aが「シール貼りをしたい」と言った。普段はシール貼り用の紙を渡すが、恐竜の型がまだあったため、恐竜を渡してみる。シールで恐竜の模様や顔を表現していた。

「たくさん貼ってあるね」や「小さいシールが顔になってる」など近くで見っていた子ども達も興味を持ち、同じようにシールで模様や顔を表現して楽しんでいた。



白い部分がなくなるようにいっぱい貼ろう！

### 活動内容③『たくさんの小さい恐竜を使って、一匹の大きな恐竜を作りたい』

活動②の子ども達が恐竜のシール貼りをしている時に、絵本『スイミー』のようだなと感じたため、集まりで絵本『スイミー』を読んでみた。

子ども達は

「小さい魚がいっぱい集まって大きな魚になってるね」

「大きな魚にも勝ててすごい」などの声が聞かれた。また

「ヴェロキラプトルは小さいけど強いよ」

「ティラノサウルスが一番強いの」

「小さい恐竜も集まれば強くなるのかな？」

「私の好きな大きなトリケラトプスも作ってみたい」なども話していた。

小さな恐竜は、たくさん貼って群れのようにする予定で進めていたが、「作った恐竜を持って帰りたい」「私が作ったのは私の物だから」という子ども達の気持ちも聞かれた。そのため、小さい画用紙に貼って持って帰る分と大きい模造紙に貼って大きなトリケラトプスを作る分に分けることになった。



大きな恐竜に小さな恐竜を貼っているとBが「周りに絵を描いていい？」とイメージが膨らみ「クレヨンで描いていいよ」と伝えると嬉しそうにしていた。最初は、地面をイメージして緑や茶色などで塗っていた。だんだん貼り終わった子どもも参加して「太陽も描こう」や「木もあった方がいいね」など話し合いながら好きなように描いてみんなで作ることを楽しんでいた。



恐竜が重ならないように貼っていこう！



みんなで大きな恐竜が  
作れて楽しかった♪  
素敵な恐竜が完成しました！



## 共有・振り返り

活動①では、図鑑は、恐竜の絵と言葉だけでなく色々な視点で書かれているため、子どもたちにとって興味の幅を広げるきっかけになるなど改めて感じた。また、絵本『きょうりゅうのおおきさってどれくらい？』は、現在の社会に恐竜がいたらどれくらいの大きさなのか比べている内容のため、子どもたちが自分の生活と結びつけて大きさをイメージすることに繋がった。

活動②では、色々な技法で小さな恐竜をたくさん作ることで、大きな恐竜だけでなく小さな恐竜にも少し興味を持ち始める姿が見られた。また、シール貼りで小さいシールをたくさん恐竜に貼ることで模様になる表現方法を子どもたちが思いついたことが、活動③へのきっかけの一つでもあった。

活動③では、「小さな恐竜をいっぱい使って大きな恐竜を作りたい」という声が子ども達からあがった。

出来上がった恐竜を壁に貼った際に、小さな恐竜と見比べて「こっちが(小さいのが)子どもで、大きいのはお母さんだね！」と話す姿が見られた。みんなで1つの恐竜を作ったことで、小さな恐竜でもたくさん集まると大きな恐竜になることを視覚的にも感じることができ、大きな恐竜だからお母さんにしようなどのイメージも広がったのではないかと考える。

色々な大きさの恐竜を作ったことで、恐竜以外の図鑑を読んでいる時も「これはどのくらいの大きさだろう」や「熊は大きいね」「魚はどれくらい？」などと、大きさを意識する姿が見られるようになった。また、積み木やブロック遊びでは「大きな家を作ろう！」や「友だちより大きくしたい」など、大きさを比べて楽しむ姿が見られるようになった。

## 『音の大きさ！①』

### ★活動のテーマ、設定理由

集まりで讚美歌や季節の歌を歌う際に保育者がキーボードを使って伴奏を行うと、普段の遊びの中でもピアノを弾いて欲しいと話す姿が見られた。

保育者がピアノを弾いていると、歌うだけでなくおままごとコーナーにあるペットボトルで机を叩いたり、カラービーズが入っている醤油差しを振ったりして楽しんでいた。そこで「色々な音の大きさ」をテーマにすることにした。



フライパンを叩くと変な音がするね！



## ★対象児 3歳児クラス 14人

### ★実施スケジュール

#### ① 子ども達と考える

- ・「自分たちで楽器を作れないかな？」と提案し、どのような楽器が作れるかを考える。

#### ② 環境を整える

○手作り楽器を作る道具を準備する。

- ・廃材（箱・プラスチックのコップ・トイレットペーパーの芯・ペットボトルのふたなど）
- ・マスキングテープ
- ・新聞紙

#### ③ 実践・記録

(1)廃材を使って楽器を作る

- ・自分のイメージした楽器を廃材で作ってみる。

(2)作った楽器で遊ぶ

- ・作った楽器がどんな音がするか鳴らしてみる
- ・自由に作った楽器を鳴らしたり、叩いたりして遊ぶ。
- ・歌に合わせて鳴らして楽しむ。

#### ④ 共有・振り返り

- ・活動中の子どもたちの声からどんな発見、学びがあったのかをまとめていく。

## 活動内容①『廃材を使って楽器を作ってみる！』

保育者がピアノを弾いているとペットボトルで机を叩いたり、醤油差しを振ったり、フライパンを叩くなどしてリズムや音を楽しむ姿が見られた。その際、“ペットボトルをジュースに見立てて遊びたい子ども”と“音を出して遊びたい子ども”とで取り合いになってしまった。そのため、“音を出して遊びたい子ども”達に「自分たちで楽器を作れないかな？」と問いかけてみた。すると、「いいね」や「何にしようかな？」など楽しみにしている姿や「作れるかな…」と不安に感じている姿も見られた。

廃材置き場に、箱やプラスチックのコップ・トイレットペーパーの芯・ペットボトルのふた・新聞紙を配置する。子ども達に「どんな楽器を作りたい？」と聞いてみると「太鼓が良い！」という意見が出た。

「太鼓はどうやったら作れるかな？」と問いかけると

「箱を使ったらいいんじゃない？」

「かわいいのが良い！」

「テープを貼ったら？」

「たくさん貼ろう」

「大きい太鼓が良いよ」など様々な意見が出た。

マスキングテープは、工作などの遊びでよく使っていたため、今回もマジックなどの道具ではなく、マスキングテープを貼って模様にしたという意見が出たのではないかと考察した。



## 【太鼓】

- 段ボールに好きなようにマスキングテープを貼って模様をつける。
- 新聞紙を丸めてバチを作る。

太鼓が出来上がると、次はコップにペットボトルのふたを入れたり、トイレットペーパーの芯から声を出したりして遊ぶ子どもがいた。そこでコップとペットボトルのふたを使ったマラカス作りを子ども達に提案した。



## 【マラカス】

- コップにペットボトルのふた（入れる数は子どもが選ぶ）を入れ、コップを重ねる。そして、接続部分にテープを貼り固定する。
- 好きなようにマスキングテープを貼って模様をつける。

マラカスは興味を持った子どもだけ作ったため「これは私（僕）が作ったの」と作っていない友だちに見せる姿が多く見られた。すると「僕（私）も作りたい」という子どもが増え、最終的に1人1個作った。

完成したよ♪



何個入れたの？



## 活動内容②『楽器を鳴らしたり、叩いたりする』

- ・太鼓は、年長組がやっていた龍神太鼓を真似し「龍神太鼓1番、ドン♪タッタ・ドン♪タッタ」と言いながら楽しそうに叩いていた。叩いているうちに、力の入れ方やバチの持ち方で音の大きさが変わること気が付き「年長さんみたいに手を伸ばして叩いたら大きな音になるよ」と教え合う姿が見られた。



ここを持つんだよ！

- ・マラカスをみんなで振って遊んでいると  
「A君と僕とで（同じ廃材を使っているのに）音の大きさが違うね」  
「ふたを4個にしたからかな」  
という会話が聞かれた。  
Aが『幸せなら手を叩こう』を歌いながら、歌詞の“手を叩こう”の部分でマラカスを振って遊び始めた。すると、周りで見っていた友だちも同じように歌いながら振って楽しむようになった。歌いながら振るということに慣れてくると「他の曲もやりたい」と話し、『キラキラ星』や『ちょうちょう』などバリエーションが増えていった。



## 共有・振り返り

活動①では、「どんな楽器を作りたい？」という保育者の問いかけに対してすぐに「太鼓がいい」と言ったのは、年長組が龍神太鼓をしているため、楽器＝太鼓に繋がっているのだと感じた。また、子ども達の中で太鼓以外思いつかなかったのは、保育園や家庭で本物の楽器に触れる機会がないためかもしれないと考えた。

保育者がマラカス作りを提案した時よりも友だちが作って楽しそうに遊んでいる姿を見た時の方が興味を持つ子どもが多くいた。

活動②の太鼓では、力の入れ方で音の大きさが変わること気が付く子や年長組の真似をして、タッタの部分で横を叩く子の姿が見られた。

マラカスは、廃材の量（今回はペットボトルのふた）を変えることで音の大きさが変わることを見つけていた。「ここで、いっぱい振ろう」や「ふたは3個にしよう！」など、どうしたら大きな音ができるかを子どもたち同士で考えることを楽しんでいた。



## 『音の大きさ！②』

### ★活動のテーマ、設定理由

廃材で作った楽器で遊んでいく中で「音楽隊を作りたい」という声が聞かれた。また、保育室内にあるタンバリンやピアノに興味を持ち「自分で弾きたい」「もっといろいろな楽器を使ってみたい」という気持ちが芽生えていた。



★対象児 3歳児クラス 14人

★実施スケジュール

① 本物の楽器はどんな音がするのかな？

- ・子どもたちと想像してみる

② 環境を整える

○本物の楽器を保育室に用意する。

- ・ピアノ ・タンバリン ・ウッドブロック ・カスタネット
- ・鈴 ・エッグマラカス ・子ども用ピアノ ・トライアングル
- ・鉄琴 ・ギロ ・ウクレレ ・ハンドベル

③ 実践・記録

○本物の楽器を自由に鳴らしたり、叩いたりして音の違いを楽しむ。

- ・興味のある楽器を鳴らしたり、叩いたりしてみる。
- ・遊びの中で持ち方や叩き方・弾き方などを知り、試してみる。

○好きな楽器を選んで演奏会をする。

- ・「音楽隊を作りたい」という事だったため、ピアノの音に合わせて自分の好きな楽器を鳴らして楽しむ。

④ 共有・振り返り

- ・活動中の子どもたちの声からどんな発見、学びがあったのかをまとめていく。



## 活動内容①『楽器の音を想像してみる』

本物の楽器を実際に見たり、触ったりする機会が少ないためか、なかなか手作り楽器のバリエーションが増えなかった。

そこで「他にはどんな楽器があるか知ってる？」と問いかけてみると「カスタネット！」「リズムはタンバリン使ってるね」「お家にギターがあるよ」と声が上がった。「その楽器はそんな音がするかな？」と聞くと「タンバリンは太鼓の音と鈴の音！」「ギターはジャーンだよ」答える姿が見られた。「同じ音でも、タンバリンと太鼓みたいに色々な楽器があるね」と保育者が伝えると「すごい！」「お家にも他に楽器ないかな」と楽器に興味を持つ姿が見られた。

## 活動内容②『本物の楽器の音を楽しむ』

様々な楽器に触れることで、音の大きさの違いを楽しみながら感じてほしいと考え、子ども達からあがった楽器の他にも鉄琴・鈴・エッグマラカス・ウッドブロック・ギロ・ウクレレ・ハンドベル・子ども用ピアノ・トライアングを用意した。そして、子どもたちが好きな時に楽器で遊べるように常設した。

タンバリンやカスタネット・鈴などは、友だちとリズムを合わせて遊んでいた。音楽にあまり興味を持たなかったAは、ウクレレに興味を持ち好きなように弦を弾いて音の違いや音の雰囲気などを楽しんでいた。

ピアノを習っているBがピアノや鉄琴にドレミファソラシドの音階があることを教える姿が見られた。そのため、子どもたちが手づくりマラカスの時に歌っていた『キラキラ星』や『ちょうちょう』などの楽譜を用意してみた。音が違うと「なんか違う、、どうやるの？」と保育者に聞いていた。また、一緒に遊んでいた友だちが「こうだよ」と教える姿も見られた。



雨が降った日に、網戸の前でAとBが涼んでいたため「雨はどんな音がするかな」と聞いてみると「たぽたぽって聞こえる!」「サクサクだよ!」などと答えた。Aがカスタネットを取りに行き「これはカチカチだね」と話すと「でも小さく鳴らしたらカタカタだったよ」とBが答えたため、2人でカスタネットを鳴らし「小さくだとカタカタかも」「おおきかったらタンタンにも聞こえる」などと音の大きさによって聞こえ方が変わるか試す姿が見られた。



保育者がピアノを弾いていると楽器を持って集まってきた子ども達。「マラカスはあんまり大きくないから二個持っていていいよ」「鈴は持ってきちゃダメだよ」などと話していた為「何で鈴はダメなの」と聞いてみると「鈴はうるさいからピアノが聞こえなくなるよ!」と答えた。

そこで、「じゃあどうしたらうるさくないかな」と聞いてみると「小さく鳴らすのは?」「こうやってトントンしたら?」などと鈴の鳴らし方を工夫する姿が見られた。

これならうるさくない?



こうやってトントンするのは?

### 活動内容③『好きな楽器を選んで演奏会をする』

2、3人の子どもがピアノや鉄琴を使って『聖者の行進』を弾いたり、叩いたりしていると、聞いていた子どもがカスタネットやタンバリンなどの好きな楽器を持ってきて音に合わせて叩く姿が見られ「音楽隊を作りたい」という言葉があがった。

「どうやって音楽隊する？」と子ども達に問いかけると

「楽器持ってきて！」

「集まって！」

「おんなじのにしよう！」

「1人1つが良いんじゃない？」

「マラカスは2個でもいいね」

「みんなでやろうよ！」

などと話しながら保育者の元へ集まる姿が見られた。

保育者がピアノで『キラキラ星』や『さんぽ』などを弾くと、ピアノの音を聞きながら好きなように楽器を鳴らして楽しんでた。音楽隊をしている時に年中が散歩から帰ってきたため、「年中さんにも聞かせてあげる？」と聞いてみると、「いいね」や「ビックリするかな？」など嬉しそうにしていた。そこで、年中がお客さんになり、演奏会を行った。

年中さんが帰ってくるまで  
少し練習しよ～♪



## 共有・振り返り

活動①では、楽器を常設したことによって、色々な楽器を自由に遊びに取り入れられるようになり、手作り楽器の時より子どもたちの音楽に対する興味・関心が広がった。

初めはエッグマラカスやギロよりもトライアングルや鈴を選ぶ子どもが多かったことや、タンバリンを鉄琴のバチで叩いてみて「大きい音でたね！」と楽しむ姿が見られたことから、はっきりとした大きな音を出す事を楽しんでいるのだと考察した。

しかし、毎日楽器に触れていくうちに、ウクレレの弦がそれぞれ音の高さが違うことに気がつき、色々な弾き方を楽しむ姿や、ピアノや鉄筋の音階を知ること、好きなように弾くのではなく音の違いを意識する姿が見られるようになった。

また、大きな音を出すと他の楽器の音が聞こえなくなってしまうことやうるさいという事に気が付き、どのように鳴らしたら小さい音が出るのかを楽しみながら探す姿が見られた。

活動②の音楽隊では、楽器の担当を決めてパートごとに揃えて鳴らすのではなく、子ども一人ひとりがピアノの音を聞いて好きな楽器を好きなように鳴らしていた。活動①で鳴らし方の工夫を楽しんでいたこともあり「こうやって鳴らしたら他の楽器の音も聞こえるよ！」

「鈴はじゃかじゃかしたらうるさいよ」

などと、音の大きさに気を付けながら音楽隊を楽しむ姿が見られた。

演奏会が終わった後、「次は鈴にしよう」や「タンバリンいいね」など自由な音楽隊を楽しむ姿が見られた。また、年中に見せたことで「もも組（2歳時）にも見せたいね」や「ひまわり組（5歳児）にもお客さんになってもらおう」など演奏会に対して意欲的な声が多く聞かれたため、今後も発表の機会を作るなど継続して活動を行っていく。

## 『体の大きさ』

### ★活動のテーマ、設定理由

前回、水の中の生き物に興味を持った子どもたちが鴨川シーワールドへ行き、実際の生き物の大きさを知った。振り返りの中で“魚で1番大きいのはシャチだけど人の中では？”という新たな疑問も浮かんでいた。以前から散歩先で相撲部屋を見ていたこともあり「人の中で1番大きいのはお相撲さんだよね！」と言う子どもたちの発言から人の大きさにも興味を持ち始めたため、『体の大きさ』をテーマに設定した。

### ★対象児 4・5歳児クラス 25人

### ★実施スケジュール

#### ① 話し合い「人の中で1番大きいのは？」

- ・体が大きい人に興味を持っていたため、どんな人が大きいか考える

#### ② 環境を整える

- ・相撲部屋を見て、お相撲さんと関わる。
- ・相撲観戦に行けるように準備する。

#### ③ 活動内容

- ・「両国国技館」へ行き実際にお相撲さんの取組みや体の大きさ、音などを感じる。

#### ④ 共有・振り返り

- ・活動中の子どもたちの声からどんな発見、学びがあったのかをまとめていく。

## 活動内容① 『人の中で一番大きいのは？』

シャチを見た後に出てきた疑問である「人の中で一番大きいのは誰？」を考え、みんなで共有する。

「人の中で1番大きいのってお相撲さんだよね！」

「お散歩で行く相撲部屋のお相撲さんも大きいもんね！」

「お相撲さんって僕たちより強いから大きいよね！」

「お相撲さん見たことあるけど大きかったよ！」

シャチから人の大きさへと興味が広がり、子どもたちが今までに会ったことがある中で「お相撲さんが一番大きい」という声が多かった。

## 活動内容② 『お相撲さんを見に行く』

散歩先にある相撲部屋へ行ってみると窓越しではあるがお相撲さんが稽古をしている様子を見ることが出来た。「すごいね！」「トレーニング頑張ってるね！」と話しながらしばらく見ていると窓を開けてお相撲さんが「こんにちは！」と声を掛けてくれた。稽古の合間ということもあり、少しの時間であったがお相撲さんと話すことが出来、子どもたちも嬉しそうであった。「やっぱりお相撲さんは大きかったよね」と帰り道も話す姿があった。



### 活動内容③ 『両国国技館へ行く』

2026年1月22日に「両国国技館」へ相撲を見に行き、実際にお相撲さんの取組や体の大きさ、音などを感じる。子どもたちは会場の大きさや人の多さに圧倒され、少し緊張している様子であった。



相撲の取組が始まり、声を大にして応援する子どもたちの姿があった。祖父母が相撲好きな子どもたちも多く、お相撲さんの名前を呼んで応援する子も中にはいた。



観覧中、保育者が持っていた取組表を一緒に見ていた子どもたち。次の対戦相手について聞かれたため保育者が「熱海富士は 187cm195kg で安青錦は 182cm140kgだよ。」と答える。すると、「大きい方が熱海富士ってことか…じゃあ、小さい安青錦が負けるじゃん。」と体の大きさで勝敗が決まるのではないかと考えているようであった。取組を見てみると小さいから負けると思っていた安青錦が勝ち、「すごいよ！！安青錦が勝ったよ！」「すごいね！小さいのに勝ったよ！」「大きいからって勝つわけじゃないんだね！」と盛り上がる子どもたちであった。

懸賞取組が始まると取組前に会場が静かになることに気が付いた子どもたち。静かな状態で取組を見てみると様々な音が聞こえることに気が付いたようで「さっきさ、体がぶつかる時にバーンって音がした！」と身振り手振りで表現する子どもの姿もあった。「なんで音がするんだろうね？」と質問すると「体が大きいから大きな音がするんだと思う！」と答えていた。

さらに、両国国技館内にお相撲さんの等身大パネルを見つけ横に並んでみたり自分の身長と比べてみたりする子どもたちの姿もあった。

「やっぱり大きいね！」「すごい！全部大きい！」「身長も高いんだね！」と改めて体の大きさを実感する子どもたちであった。



## 振り返り・まとめ

今回は、子どもたちの「人の中で1番大きいのはお相撲さんだよね！」の言葉から人の大きさにも興味を持ち、『体の大きさ』というテーマで活動を行った。散歩先で出会ったお相撲さんに声を掛けてもらい、会話が出来たことでお相撲さんに親しみを持つことが出来た。そこからさらに、相撲に対しての興味が強まり、両国国技館へ相撲観覧に行くことにした。生の取組を見たことでお相撲さんの体の大きさや体がぶつかり合う音など子どもたちが感じたことを話す姿があり、子どもたちにとって学びを深める良い機会になったのではないかと思う。保護者が迎えに来た際も「お相撲さん大きかった！」「お相撲さん強かった！」と話す子どもたちの姿が見られた。また、翌日に保育園で相撲大会があったため「昨日のお相撲さんは押したり持ち上げたりしてたよね！」「すごい押してたよね！」とお相撲さんがどのように戦っていたのか話し合っていたり、「戦う前に塩振ってたよね！」「足も上げてた！」と思い出し、真似をする姿もあった。

実際に見て、感じて、考える活動が出来たことで子どもたちの学びや気づきにつながっていった。今後も散歩で相撲部屋に行き交流する機会を持ちたいと思った。そして、子どもたちの気づきや発見が見つかるような活動を続けていきたい。



## ～ 全体まとめ ～ クラス担任より

今回のテーマである「大きさ」は、4・5歳の子どもたちが「お寿司屋さんごっこ」をしている姿から始まりました。

「もっと大きい魚を知りたい」という思いから図鑑を調べ、「海の生き物の中で一番大きい魚がシャチだ!」という発見をしました。実際に水族館に行き、自分たちの目でシャチの迫力や大きさを目の当たりにすると、「大きいけれど、どうしてあんなに大きくなったんだろう?」「他の魚を食べているからかな?」と、大きくなった経緯や理由を知りたいという気持ちが自然と湧き上がってきました。

また「人間の中では誰が一番大きいのかな?」という疑問も生まれ次の活動につながっていきました。この疑問には、散歩先で見かけることの多い「お相撲さん」と答える子が多くいました。実際に相撲部屋や国技館に足を運び、お相撲さんや取り組みを見る中で、お相撲さんの大きさだけではなく、ぶつかる音の大きさにも驚かされました。

3歳児クラスでは「恐竜」の大きさに興味を持ち、大きい恐竜だけでなく、自分たちよりも小さい恐竜がいることを知りました。実際に小さな恐竜と大きな恐竜を作ったことから大きさのイメージが広がっていきました。

また、体の大きさだけでなく音にも大きさがある事にも気づきました。手作り楽器を作ったり、本物の楽器に触れたりする中で「演奏をしてみたい」という気持ちが生まれ、お客さんを前に楽しんで演奏を披露してくれました。

「大きさ」というテーマから始まった「すくわくプログラム活動」でしたが、子どもたちが「見たい」と思った物からさらに興味が発展していきました。生活の中で様々な「大きさ」を知る機会となり、多くの気づきが生まれたことで、当初の想像もよりもずっと大きな活動につながり、わくわくする体験を多く経験することができたと感じています。

## ～編集後記～

昨年度に続き、今年もたくさんの子どもの声や疑問が一つのプログラムになりました。春ごろに、どんなテーマになるのかなと思っていたら、職員の方から「2025年度の神愛保育園のテーマは『大きさ』になりました」と聞き、さて、どんな展開になるのかなと期待しながら約1年間実践活動を見守っていました。

子どもたちは、大人が気にしない何気ないことも「どうして?」「もっと知りたい」と興味関心が広がり、深まっていきます。子どもらしい発想から始まったことも、実践を行う中で、ちょっとした専門家になっていました。毎日の保育活動の中で、子どもの興味、関心は何気ないことから始まるので、見逃してしまうこともあります。それをうまくキャッチし、次につなげていくことの大切さを、職員はこのプログラムから学んだことと思います。

そして、子どもは教えられる存在だけではなく、大人が子どもから学ぶことが本当に多いことを気付かされます。子どもと同じ視点や視線を向けることで、私たち職員、大人の世界も少しずつ広がり、より良い変化につながることを教えられました。

最後に、このプログラムの実践の準備や活動記録をまとめ、皆さんに手に取ってもらえるまでの小冊子にまとめた職員たちに感謝したいと思います。  
神愛保育園園長 鵜澤由記子





しんあい

---